

分野別方針9 観光

～いよいよ旅の本質へ 世界が共感する観光都市を目指す～

基本方針

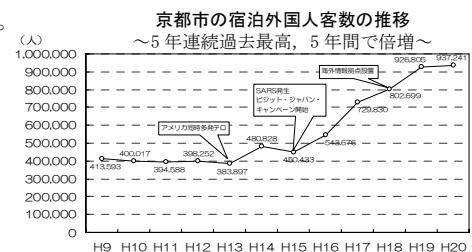
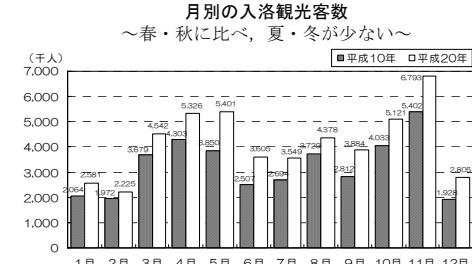
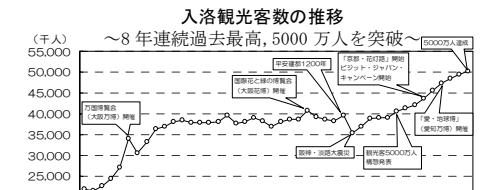
「5000万人観光都市」を実現した京都観光は、「量の確保」とあわせて、「質の向上」を図り、「旅の本質」を堪能できる世界で一番のまちを目指す。そのため、「観光スタイルの質」と「観光都市としての質」の向上を目指し、滞在・宿泊型観光、環境にやさしい歩く観光、ほんものとふれあう観光を進めるとともに、京都の魅力を自ら楽しむ市民が観光客を温かく迎え、いつでも、誰でも、安心安全かつ快適に観光できる受入環境を整える。

また、京都の都市特性を生かした世界に冠たる国際MICE都市への飛躍を目指す。

※MICE（マイス）：企業のミーティング、企業研修旅行、国際会議、イベントなどの総称

現状・課題

- 年間入洛観光客数は8年連続過去最高を更新し、平成20年に5000万人を突破した。平成21年は世界同時不況や新型インフルエンザの影響で厳しい状況にある。
- 入洛観光客の特徴は、「女性が64.3%」「50歳代以上が約半数、20歳代以下は約4分の1」、「日帰り74.0%、宿泊26.0%」「平均宿泊数1.69泊」で、訪問回数では「10回を超えるリピーター」が半数を超える。
- 月別の入洛観光客数は、春・秋に多く、夏・冬は少ない。2月は11月の約3分の1。
- 主要ホテルの客室稼働率は、観光シーズンにはほぼ満室で、宿泊施設の確保が困難である。また、世界的に知名度の高いホテルや長期滞在者向けの施設などが少ない。
- 観光客の京都に関する感想では、「交通」「道路」に関する評価が突出して悪い。
- 修学旅行客数は、対象生徒数が減少する中で100万人を維持している。一方、海外からの教育旅行の受入れは、少人数にとどまる。
- 宿泊外国人客数は、5年間で倍増の約94万人となり、特に欧米諸国からの人気が高い。今後中国人観光客の増加が見込まれる。
- 国際観光は世界各国で主要産業として成長するとともに、旅行で年間1億円以上消費する層が10万人以上も存在する。
- 国際コンベンションは世界で20位以下、国内でも2位から4位に転落している。



政策の目標

＜みんなで目指す10年後の姿＞

- 名所を足早に見て回るのではなく、じっくり滞在し、京都の日常生活や文化、芸術、食、産業、知恵、自然など、奥深い京都の魅力を五感をもって体感する観光や、歩いて楽しむことをはじめとする環境モデル都市・京都にふさわしい環境にやさしい観光など、「質の高い観光スタイル」が定着している。
- 今ある魅力が守り育てられるとともに、新しい魅力が創出され、国籍、年齢、性別、障害の有無等にかかわらず、誰でも、いつでも、不満なく、京都の魅力を堪能できる、更に「質の高い観光都市」となっている。
- 京都が有する世界に誇る財産を、子どもから学生、大人まで、市民自身がしっかり享受し、知り、学び、楽しみ、市民が京都のファンとなっている。また、そうした市民が、観光客を温かく迎え、京都観光の新たな主体として存在感を発揮するまちとなっている。
- 京都の都市特性を生かした世界に冠たる国際MICE都市となっている。

＜政策指標＞

指標	現況値	目標値
1 滞在日数	1.69泊 (H20)	—*
2 乗用車による入洛率	29.0% (H20)	—*

※ 目標値は、未来・京都観光振興計画 2010+5 での検討も踏まえ、第2次案までに設定予定

市民と行政の役割分担と共済

＜共済の方向性＞

